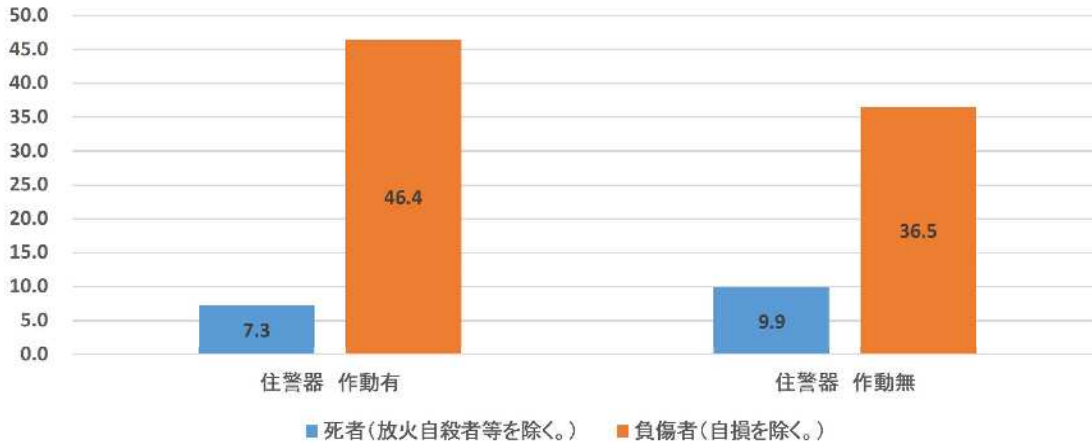


住宅用火災警報器の効果について

1 住宅用火災警報器の作動の有無による死傷者の比較

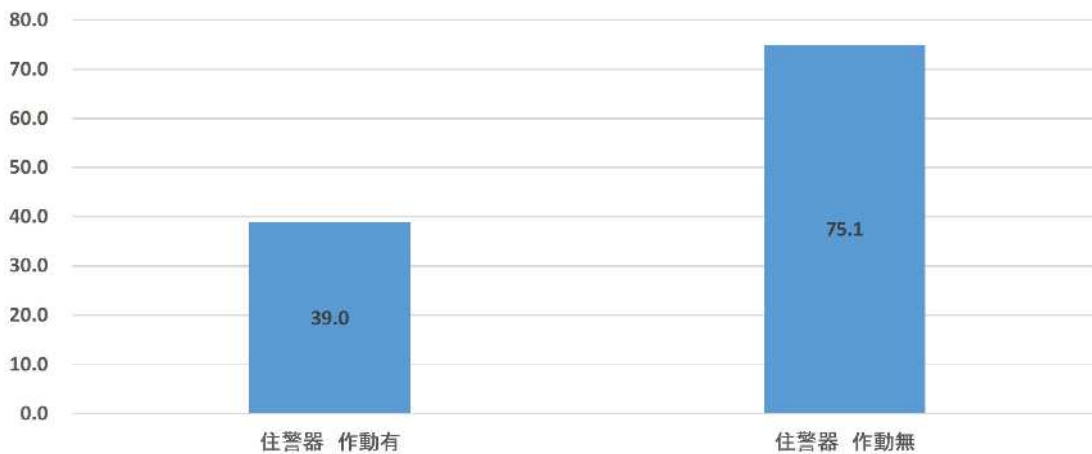
一般住宅の火災において、住警器の作動があったものは、作動がなかったもの（未設置及び不明を含む。）と比較して、火災 100 件あたりの死者数は 2.6 人（26.3%）減少している。



一般住宅火災 100 件あたりの死傷者数(平成 19 年～令和 2 年累計)

2 住宅用火災警報器の作動の有無による焼損床面積の比較

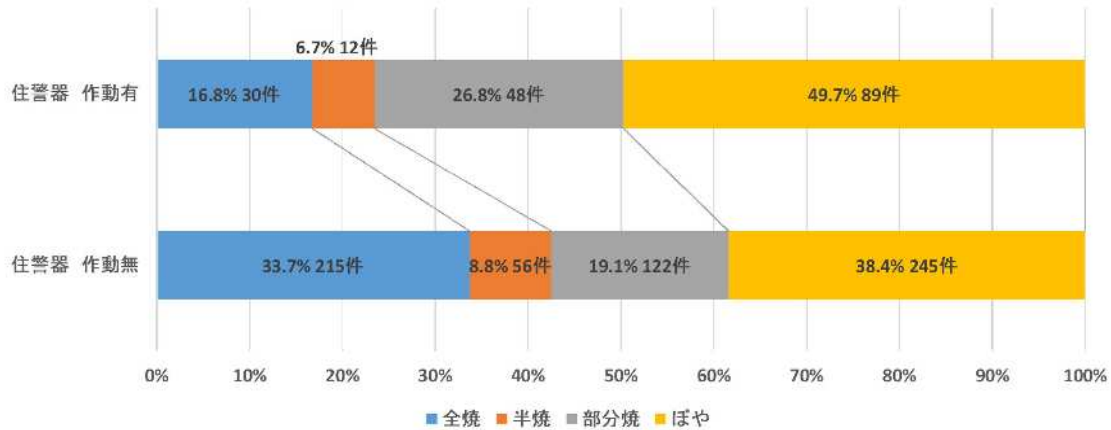
一般住宅の火災において、住警器の作動があったものは、作動がなかったもの（未設置及び不明を含む。）と比較して、火災 1 件あたりの焼損床面積は 36.1 m²（48.1%）減少している。



一般住宅火災 1 件あたりの焼損床面積(平成 19 年～令和 2 年累計)

3 住宅用火災警報器と焼損程度の関係

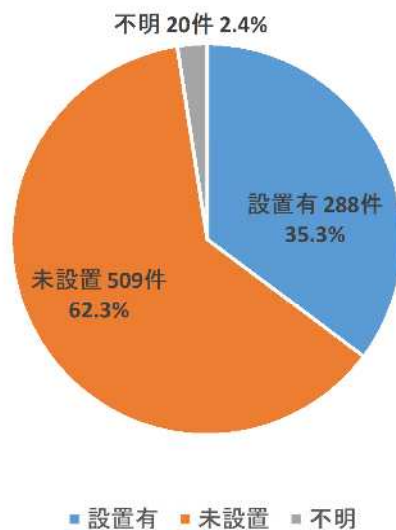
一般住宅の火災において、住警器の作動があったものは、作動がなかったもの（未設置及び不明を含む。）と比較して、全焼、半焼の割合は約半数となっている。



住警器の作動有無による焼損程度割合の比較(平成19年～令和2年累計)

4 住宅用火災警報器の設置状況

平成19年から令和2年までの一般住宅の火災817件のうち、住警器設置有は288件(35.3%)、住警器未設置は509件であり、一般住宅の火災の半数以上が住警器の設置されていない住宅で発生している。



一般住宅火災における住警器設置状況(平成19年～令和2年累計)